

今回の演習では、引き続き電子メールの利用方法を修得する。「携帯があるから要らない」なんて思っていたら大間違い。将来、パソコンやワークステーションで電子メールを利用するようになる。しかし、「MEW」を使うかと聞かれると、多くはそうではないだろう。私も昔「MEW」を使っていたことがあるが、最近はパソコンで「Eudra」を利用している。ただし、テキストエディタである「Mule」は非常に便利であり、Windows 等でも利用できるので、修得しておいて損はないだろう。

電子メールの演習に入る前に、環境整備を行う。

1) 環境を整備するためのファイル「.cshrc」と「.emacs」をコピーする。これらのファイルの正体が気になる人は自分で調べてみよう。自分で書き換えれば、好きな環境を構築できる。

```

>> cd                               ※ ホームディレクトリへ
>> cp /home0/fcl/m/mkano7/.cshrc .   ※ "." (ドット) はカレントディレクトリを表す。
>> cp /home0/fcl/m/mkano7/.emacs .
>> ls -a                               ※ ファイル名の最初に"." が付いているファイルを確認するためには、"-a" が必要である。

```

2) 「.cshrc」を有効にする。

```
>> source .cshrc
```

それでは、電子メールの演習を行う。まずは復習から。

3) 「Mule」を起動する。

4) 「MEW」を起動する。

5) 同じ机に座っている誰かにメールを送信する。

「Subject」は何でもよいが、何か書くこと。本文には日本語で自分の氏名を書くこと。

6) 受信メールを確認する。

7) 送信してきた相手に返信メールを送る。

「Subject」は自動的に作成される。本文には日本語で「メールありがとう！」と書くこと。

8) 受信メールを確認する。

9) 「MEW」を終了する。

メールを送るときには、署名するのが一般的な習わしである。そこで、署名ファイルを作成する。

10) 「Mule」が起動していることを確認する。

11) 「C-x C-f」と入力し、画面最下部にファイル名「.signature」を入力した後、Enter キーを押す。

12) 自分の署名を作成する。例えば

```

+-----+
Manabu KANO (Dr.Eng.)
Dept. of Chemical Engineering
Kyoto University
URL: http://www-pse.cheme.kyoto-u.ac.jp/~kano
+-----+

```

13) 「C-x C-s」と入力し、署名を保存する。

では、署名付きのメールを送る。

- 14) "MEW"を起動する。
- 15) 同じ机に座っている誰かにメールを書く。まだ送信しない。
- 16) 署名を挿入する。(うまく挿入できなければ、"C-x i"と入力し、".signature"ファイルを指定する。)
- 17) 同じ机に座っている誰かにメールを送る。
- 18) 受信メールを確認する。
- 19) "MEW"を終了する。

ここまで来れば、基本的な電子メールの使い方は修得できたことになる。それでは、次の課題の提出をもって、本日の出席確認とする。何としてでも成し遂げるように。

【 課題 】

京都大学化学工学専攻の加納学助手に電子メールを出しなさい。"Subject"欄には自分の**学籍番号を記入し、本文には氏名、学籍番号、および本日の演習の感想を記入すること**。なお、本文の最後には自分の署名を入れること。これらの条件を満たしていないメールは受け付けない。受け付けられないということは、欠席扱いになるということである。

<ヒント>

まず、加納学助手のメールアドレスを知らなければならない。大学の教官であるから、大学のウェブサイトから情報を入手できるはずである。そこで、"Netscape" (テキスト 243 頁)を利用して必要なメールアドレスを探す。今回は、本人のホームページの在処(URL)を本資料中に示してあるので、簡単にメールアドレスを見付けられるはずである。メールアドレスがわかったら、メールを作成する。指定された必要事項はすべて記入すること。

以上

<次回の演習に向けて>

今回は"LaTeX" (ラテフと呼ぶ)の演習を行う予定である。"LaTeX"って何だ、と疑問に思う学生諸君も多いだろう。とりあえず、超高性能な文書作成用ソフトだと思えばよい。文書作成用ソフト(ワープロ)としては、例えばMicrosoft Wordみたいなものがある。もちろん、画像や表なども簡単に表示できる。テキストを見ればわかる通り、"LaTeX"の操作はちょっと複雑に見える。しかし、慣れてしまえば平気である。何より、非常に美しい文章を自在に作成できるようになるのは大きな魅力である。将来、諸君が様々な学会やジャーナル(専門雑誌)に論文を投稿する際に、"LaTeX"を勉強しておいて良かったと心底思う場面が来るだろう。私も、すべての論文を"LaTeX"で書いている。"LaTeX"を利用するのが当然と考えられている学会も多い。

"LaTeX"では、数多くの命令を駆使して文書の成形を行う。文書および命令はテキストエディタで編集するのが便利であり、この演習では"Mule"を用いる。従って、"Mule"を自在に使いこなせるようになることが、"LaTeX"修得への第一歩となる。次回の演習までに、"Mule"の使い方をしっかり復習すると共に、"LaTeX"の説明(テキスト 147 頁)も読んでおこう。